

パターンD 解説・特徴（スタートアップ企業の売却・資本の受入）

定義・特徴

- スタートアップ企業が、次なる成長を目指して自社の株式の売却または資本の受入れを行うパターンである
 - 本パターンのみ、少数持ち分の出資であるマイノリティ出資も含めている
- M&A後は、買い手の資源（資金・ネットワーク・ノウハウ等）を活用して、急速な事業拡大を目指すことが多い。また、IPOを目指す際の人材確保・体制整備の面からも、有効なケースもある

スキームイメージ

【売り手（対象会社）
/ 出資先企業】

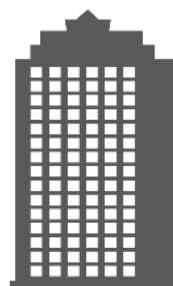
スタートアップ企業



過半数超の
株式の売却
or
マイノリティ出資依頼

【買い手/出資者】

外国事業会社・
海外PEファンド等



具体例

- ピコサーム×ネッチジャパン
 - スタートアップ企業ピコサーム【売り手】によるネッチジャパン【買い手・事業会社】への売却
- フロムスクラッチ×KKR
 - スタートアップ企業フロムスクラッチ【出資先企業】に対するKKR【出資者】のマイノリティ出資

概況

- スタートアップ企業の成長手段としてのM&A増加
 - 国内のスタートアップ企業を対象としたM&A（日本企業によるものを含む。マイノリティ出資は含まない）は、2022年の件数が2017年比で約1.5倍になるなど、増加傾向（＊）にある